

令和6年度鹿児島県周産期・小児医療協議会 議事概要

1 日 時

令和7年1月30日（木）午後6時00分～午後7時50分

2 場 所

ホテルウェルビューかごしま 潮騒

3 出席委員

別添出席者名簿のとおり（21名中21名出席）

4 議 事

（1）会長の選出について

委員の互選により、牧角委員が選出された。

（2）副会長の選出について

委員の互選により、房村委員が選出された。

（3）本県の母子保健指標等について

【主な御意見等】

- ・ 低出生体重児の割合について、近年全国との差が開いてきている。
要因の解析がなされているのか。 [松岡委員]
- 全国的に見ると、母親が19歳以下及び35歳以上である場合、より低出生児が生まれやすい傾向がある。また、本県における母の年齢階級別出生割合は35歳以上が29.4%であるが、全国と比較すると低い。 [事務局]
- 鹿児島県は全国と比較しても新生児医療のレベルが高いため、母体を優先して、早めに子どもを胎外に出す選択が可能。
[小林委員，上塘委員]
- 早産児については、2,500グラム以下の低出生体重児であっても、元気な児もいる。より小さい1,500グラム以下の新生児等に注目して欲しい。 [上塘委員]
- データの解析を行い、何が課題であるか判断した上で悪い数字を良くするために必要なことは何かについて議論すべきではないか。
[坪内委員]

（4）子ども医療費助成制度の見直しについて

【主な御意見等】

特になし

(5) その他

ア 周産期・小児医療に係る主な事業実績（見込）について

【主な御意見等】

- ・ 災害医療について、南海トラフ地震が発災した際に自衛隊の援助が不足する可能性が指摘されている中で、新生児医療分野における避難の方法を模索するなどの予防訓練の実施に係る県の見解は。

[上塘委員]

→ 県の医療分野全体の訓練が実施される場合には、周産期・小児分野におけるサポートという形で災害時小児周産期リエゾンの運用を考えている。

[事務局]

→ 令和5年度から災害時小児周産期リエゾンについて机上訓練を実施しており、訓練を通してDMA Tとの連携を更に強めていきたい。

[徳久委員]

イ かごしま子ども未来プラン2025（素案）について

（周産期・小児医療部分）

【主な御意見等】

- ・ 乳児や小児の「死亡」に関する数値目標がない。医療においては死亡のアウトカムの改善を目指すのが筋であると考え。乳児死亡率・小児死亡率が全国より高い状況で、記載がされていないことが残念。現状の報告にとどまらず、改善策を見出すことが重要と考えるため、本協議会のタスクとして今後考えて欲しい。

[岡本委員]

その他

【主な御意見等】

- ・ 災害・感染症に備える観点から周産期母子医療センターは複数あるべきと考えるが、センターの中には運用が厳しいという施設もある。協議会として考えを明確化していただきたい。

[小林委員]

- ・ センター運営を含めた周産期医療体制の在り方については、本協議会の下にワーキンググループを作るなどして関係者間で協議を行い、今後の方向性を示すプラン等をまとめて来年度の協議会に提出できるよう調整を進めてはどうか。

[坪内委員]

→ 出生数の減少や災害への対応などを踏まえ、病院数・病床数、そういったものの検討を行う必要があると考えている。現在も関係の先生方にお話を伺っているが、経営に関する部分もあることから、丁寧にお話を伺いながら対応して参りたい。

ワーキンググループについては、こういった形が良いのかということも含め、御意見をお聞きしながら対応して参りたい。

[事務局]